

第1・2学年 図画工作科

児童の実態（7月現在）

<p><実態の分析> 観点別結果の分析 ○教科の観点1 意・関・態 図工の授業を楽しみにしており、意欲的に取り組む児童が多い。 ○教科の観点2 発・技 手や体全体の感覚を働かせて、自由な発想で表現する児童が多い。 ○教科の観点3 鑑 身の周りの作品などから、面白さや楽しさを感じ取れる児童が多い。</p>
--

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
<p>[課題設定] 進んで表したり見たりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。</p>	<p>[指導] 児童が意欲的に造形活動に取り組めるように、授業毎でのめあてを明確にし、課題の提示方法を工夫する。</p>	<p>[補充的な学習指導] 題材によっては、完成までに大きな時間の差が生じることがあるため、副教材を取り入れ、時間のバランスを図る。</p>
<p>[学習形態] 個人での表現活動の他に、グループでの活動や、学年全員での共同活動も取り入れる。</p>	<p>[学習形態の工夫] 鑑賞の時間を通して、個人・グループでの作品を電子黒板に投影し、発表の場を設定する。</p>	
<p>[発問・指示・板書計画] 題材名・めあてを板書し、場面に応じた ICT の活用、視覚的にわかりやすい提示をする。また、安全面の指示は、全体・個別指導、場面に応じた支援を行う。</p>	<p>[発問・指示・板書の工夫] 授業内容を板書で提示し、要点を抑えた短い指示にする。また、電子黒板に授業の流れを提示・説明し、視覚と聴覚で捉えられるようにする。</p>	<p>[発展的な学習指導] 技法や簡単に表現できる方法を多く取り入れ、苦しい児童も「できる」喜びをもたせられるよう、多くの成功体験をさせる。</p>
<p>[教材の活用] 教材研究を通して、毎年新たな教材を導入し、子供たちの創造力を引き出す。また、身近材料やリサイクル素材を有効活用する。</p>	<p>[教材の工夫] 児童が興味をもち、豊かな創造力を引き出せる教材をさらに工夫する。</p>	
<p>[評価の方法] めあてをもとに、表現方法や活動中の他の児童とのかかわり、作品への取り組み方を評価する。</p>	<p>[評価の工夫] 児童の活動中のつぶやきや、表現方法等を全体に提示し、創作意欲を高める。</p>	

<p><評価・修正></p> <p>[評価] ・毎時間のめあてをもとに、児童一人一人が自らの課題をもち意欲的に取り組む姿が見られた。また、完成した作品を写真で記録し、電子黒板に投影して発表の場を設定して取り組んだ結果、発表する意欲の高まりが見られた。今後も継続的に行っていく。</p> <p>[修正] ・とても意欲が高く、すぐにでも課題に取り組みたいため、最後まで話を聞けない児童が2～4名程度いる。落ち着いて最後まで話が聞けるよう、発問・声の大きさ、授業規律などを徹底していく。</p>
--

第3・4学年 図画工作科

児童の実態（7月現在）

<実態の分析>

観点別結果の分析

- 教科の観点1 **意・関・態** 授業を楽しみにしており、進んで表現し、意欲的に取り組む児童が多い。
- 教科の観点2 **発・技** 手や体全体の感覚を働かせて、豊かな発想で表現方法を工夫する児童がいる。
- 教科の観点3 **鑑** 友達の作品を楽しんで見合い、よさや面白さを見つけられる児童が多い。

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
[課題設定] 身近な材料や場所などを基に、発想してついたり、これまでの経験を生かし、組み合わせたり、形を変えたりしてつくるようにする。	[指導] 児童が意欲的に造形活動に取り組めるように、授業毎でのめあてを明確にし、課題の提示方法を工夫する。	[補充的な学習指導] 題材によっては、完成までに大きな時間の差が生じることがあるため、副教材を取り入れ、時間のバランスを図る。また、各学期に2～3回程度、プログラミング教材を取り入れ、情報収集の方法や多様な思考がもてるようにする。
[学習形態] 個人での表現活動の他に、グループでの活動や、学年全員での共同活動も取り入れる。	[学習形態の工夫] 鑑賞の時間を通して、個人・グループでの作品を電子黒板に投影し、発表の場を設定する。	
[発問・指示・板書計画] 題材名・めあてを板書し、場面に応じたICTの活用、視覚的にわかりやすい提示をする。また、安全面の指示は、全体・個別指導、場面に応じた支援を行う。	[発問・指示・板書の工夫] 意欲を高める題材を選び、安全面についての留意事項等は、電子黒板にわかりやすく提示する。	[発展的な学習指導] 技法や簡単に表現できる方法を多く取り入れ、苦手な児童も「できる」喜びをもたせられるよう、多くの成功体験をさせる。また、苦手意識をもたせないよう発達段階に応じた課題毎に必要な技能の習得を図る。
[教材の活用] 教材研究を通して、毎年新たな教材を導入し、子供たちの創造力を引き出す。また、身近な材料やリサイクル素材を有効活用する。	[教材の工夫] 児童が興味を持ち、豊かな創造力を引き出せる教材をさらに工夫する。	
[評価の方法] めあてをもとに、表現方法や活動中の他の児童とのかかわり、作品への取り組み方を評価する。	[評価の工夫] 児童の活動中のつぶやきや、表現方法などを全体に提示し、反応や動きを把握する。	

<評価・修正>

- [評価]** ・毎時間のめあてをもとに、児童一人一人が自ら課題をもち、意欲的に取り組むことができた。また、ICTを活用して、より効果的な提示方法を工夫した結果、児童一人一人の意欲の高まりが見られた。
- [修正]** ・片付けの指示を出しても気持ちの切り替えができず、作業をやめる事のできない児童がいる。早めの指示、個別の声掛け・支援を継続的に行う。

第5・6学年 図画工作科

児童の実態（7月現在）

<実態の分析>

観点別結果の分析

- 教科の観点1 **意・関・態** 材料や場所などに進んでかかわり合い、意欲的に取り組む児童が多い。
- 教科の観点2 **発・技** 感じたこと、想像したことなどを豊かな発想で表現し、工夫する児童がいる。
- 教科の観点3 **鑑** 作品の鑑賞を通して、色や形、表現の意図や特徴をとらえることができる児童がいる。

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
[課題設定] 感じたこと、想像したこと、伝えたいことを絵や立体・工作で表現し、つくりだす喜びを味わえるようにする。	[指導] 児童が意欲的に造形活動に取り組めるように、授業毎でのめあてを明確にし、課題の提示方法を工夫する。	[補充的な学習指導] 題材によっては、完成までに大きな時間の差が生じることがあるため、副教材を取り入れ、時間のバランスを図る。また、各学期に2～3回程度、プログラミング教材を取り入れ、情報収集の方法や多様な思考がもてるようにする。
[学習形態] 個人での造形活動の他に、グループでの活動や、学年全員での共同制作も取り入れる。	[学習形態の工夫] 個人の表現活動・グループでの表現活動後、必ず鑑賞の時間を設定し、他の作品を通じて、豊かな発想や構想の感覚を養う。	[発展的な学習指導①] 技法を多く取り入れ、苦手意識をもたせないように多くの成功体験をさせる。
[発問・指示・板書計画] 題材名・めあてを板書し、ICTの活用、視覚的にもわかりやすい提示をする。また、安全面での指示は、全体・場面に応じて支援を行う。	[発問・指示・板書の工夫] 意欲を高める題材を選び、安全面についての留意事項などは、電子黒板にわかりやすく提示する。	[発展的な学習指導②] 鑑賞の時間を通して、作品のよさや、見る視点のポイントを押さえ、多面的なとらえ方をもたせるようにする。また、オリンピック・パラリンピックに向けた題材を取り入れ、伝統と文化に関連のある様々な美術作品の知識・理解を深める。
[教材の活用] 毎年新たな教材を導入し、子どもたちの創造力を引き出す。自然素材（木育）やリサイクル素材を有効活用する。	[教材の工夫] 児童が興味を持ち、豊かな創造力を引き出せる題材をさらに工夫する。	
[評価の方法] めあてをもとに、課題への取り組み方、表現方法や活動中の他の児童とのかかわり、造形的なとらえ方などを評価する。	[評価の工夫] 児童の活動中のつぶやきや、他の児童とのかかわりの中で育まれた創造性を全体に提示し、反応や動きを把握する。	

<評価・修正>

[評価] ・毎時間のめあてをもとに、児童一人一人が意欲的に取り組む姿が見られた反面、課題によっては苦手意識をもつ児童が各クラス2～4名程度いるため、個別支援が必要であった。引き続き、継続的な声掛け・支援を行う。

・児童の授業中の活動や様子を、学級担任と連絡を深め、より個に応じた対応ができた。

[修正] ・意欲の低い児童が1～2名程度おり、様々な支援や声掛けなど、継続的に行ってきたが、あまり改善がみられない。各担任と連携を図りながら、粘り強く指導していく。